ヨシナカ新聞

8月号
発行所
㈱北陸ヨシナカ
東京営業所
TEL：03-3555-0796

「人一倍」が二倍でないのはなぜ?

『人一倍』はなぜ『人二倍』と言わないのでしょうか。それは「昔は『一倍』が『二倍』だったから」だそうです。

明治の初期頃までは一倍が「×2」の意味でした。例えば、「りんご一個の一倍」と言われれば今はりんご一個を指すが、当時はりんご二個を表現していたそうです。

しかし、時代が進むと西洋文化が日本に流入し、二倍が「×2」という文化に少しずつ変化しましたが、当時の人はこれには困惑したようです。

明治8年以降は一倍という表記が禁止され、無理やり変革していったといいます。明治以前の名残から「人一倍」という言葉はそのまま使われ続け、今に至っています。

世界で人気がある絵文字

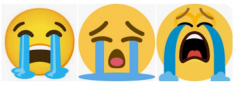
毎年7月17日は「世界絵文字デー」とされ、インターネット上では絵文字の使用促進を目的としたさまざまな企画が行われています。SNSデータを活用したマーケティングリサーチツールのBrandwatchは、2023年の世界絵文字デーを記念して、2023年1月1日から6月30日までのオンラインでの絵文字使用に関する調査結果を公開しました。

Brandwatchの調査によると、調査期間中に最も多く絵文字を使用した国は日本で、その件数はおよそ5億2,600万件近くに上ったそうで、この件数は2位の米国と比較して13%も多く、日本での絵文字の人気の高さがうかがえます。

Brandwatchでは、国別の絵文字使用量のほかに、次の6つの調査結果を明らかにしています。

①絵文字の使用は2022年下半期から30%増加

②最も人気の絵文字は「大声で泣いている顔（Loudly Crying Face）」



③「親指を上げた手（Thumbs Up）」の印象は悪化している。

④男性の58%が絵文字を使ってツイートするのに対して、女性は42%。

⑤絵文字は世代を超えて使用されている。「炎（Fire）」と「キラキラ（Sparkle）」は、それぞれブランドと消費者の間で最も使用されている絵文字。

かき氷

暑い日が続いていますが、皆様元気でお過ごしでしょうか?

この暑さで最近かき氷が愛しくなっています。かき氷は今では季節に関係なく食べることができますが、昔は勿論そうではありませんでした。平安時代に清少納言が書いた随筆『枕草子』に、かき氷とされるものが登場しています。そこには『あてなるもの（上品なもの）』として、『削った氷に“甘葛（あまづら）”と呼ばれる植物から作られる甘味料をかけたもの』を挙げています。

当時は冬になると山などから天然の氷を運んできて、『氷室（ひむろ）』と呼ばれるところに保管して、夏になるとそれを都まで運んでいました。また、当時は甘葛やハチミツ、水あめといった甘味料も高貴な身分の人しか口にすることができない、とても貴重なものでした。貴族の中でも限られた人だけしか食べられなかった、かき氷はまさに『あてなるもの』でした。

かき氷が庶民の間でも広まるようになったのは明治以降で、氷を人工的に作る技術が発達し、さらに“氷を刃で削っていく機械”、『氷削機（ひょうさくき）』が誕生したことで、やがてかき氷は身近な存在となっていきます。

この機械は氷を刃で固定して、ハンドルをグルグル回しながら削っていくもので、今でも使われているかき氷機とほとんど変わらない仕組みでした。

昭和の戦後の頃まで、かき氷はお店で食べるものでしたが、その後、電気冷蔵庫が普及するようになると、家庭でも手軽に作れるかき氷機が次々と誕生しました。そして、最近は氷を薄く削ってフワフワのかき氷機も登場し、家庭で食べられるようになりました。（ニッポン放送『羽田美智子のいってらっしゃい』より）

SK85

炭素工具鋼の中で最もベーシックで良く使われているのがSK85です。Sは鋼（Steel）、Kは日本語の工具（Kougu）の頭文字に由来しています。炭素を0.85%前後含んでいるので、焼き入れ性に特に富んでいる為、焼き入れを行う必要がある製品に使用されることが多いです。耐摩耗性が必要な場合は焼入れ後低温焼戻し、靭性が必要な場合は高温焼戻しをして使用します。

焼き入れ焼もどしにより、HRC58以上の硬さを得ることができます。高い硬度を持ち、耐摩耗性に優れているので、冷間鍛造、板金プレスのように高い負荷がかかる金型などに使用するのに適しています。また、その他にはカトラリーや農機具部品、自動車用部品、一般バネなど幅広い分野で使用されています。刃物用の素材として、アメリカではメジャーメーカーが実用ナイフの素材にも採用していることが多く、安価で手に入る素材ともされています。

しかし、寸法が大きくなると芯部まで硬さが入らないことがあるので注意が必要です。